

我が国のMICEにおける従来からの課題

【競争激化に伴う、更なる国際競争力強化の必要性】

- ・我が国の国際会議開催件数/順位[ICCA統計]
2018年：505件 / 7位 → 2019年：**527件** / **8位**

【技術革新の必要性】

- ・最先端テクノロジーの導入による効率化・付加価値向上
- ・社会全体におけるDX加速化への対応

【持続可能な観光へのシフト】

- ・環境配慮等,SDGsに即したMICE開催が求められる世界的な潮流
- ・災害激甚化に伴う観光危機管理・事業継続計画(BCP)の必要性

感染症の世界的拡大に伴う社会経済環境の変化

【感染症対策】

- ・国際間および地域間の移動制限
- ・飛沫感染防止に伴う「三密」回避対策の必要性

【社会・経済の変化】

- ・非接触のサービスやツールの利用拡大
 - ◆リモートワーク ◆オンラインミーティング
 - ◆キャッシュレス ◆オンラインストア利用
- ・Face to Faceのコミュニケーションの相対的価値増大

事業目的

- ・ウィズコロナおよびポストコロナ時代の国際会議（CとM）のあり方と、その実現に有用であるサービス・テクノロジーを取りまとめて、MICE事業者、各ベニュー、コンベンションビューローをはじめとした国際会議（C/M）に関わる主体に対して提示し、活用を促進する。
- ・新たな環境に適応した国際水準のMICEの実現とそれを通じた国際競争力強化を目指す。

事業概要

I～IIIの各業務を通じ、我が国の各地域にて、新たな環境に適応した国際水準のMICEの実現を目指す
サプライヤー・施設・コンベンションビューロー・自治体による、自律的な動きを側方支援する。

I. 調査業務

- ウィズコロナ・ポストコロナ時代における新たなMICEのあり方を調査
- 新たなMICEのあり方を実現するサービス・技術のツールリストを作成

II. 実証事例収集業務

- Iで調査したサービス・技術のうち1つ以上が実装された、MICEの会場・催し物について情報収集を行う
- 使用されたサービスの効果や機能、利点を検証する

III. 周知広報業務

- 中間報告として、IおよびIIの業務の成果を、広くMICE関係者に周知するウェビナー(ウェブセミナー)を11月末までに開催【即時性の重視】
- e-learning コンテンツとしてウェビナーの内容を後日でも閲覧・利用が可能な形態として取りまとめる
- 本事業全体の成果を報告書を作成【知見・情報の共有】

国際会議のあり方を規定する各要素の変化、対応への課題

ヒト【主催者/参加者/MICE人材】

変化と課題

- 感染しない/させないことに対するリスク認識の高まり
- 主催者の開催意欲自体は存在
- オンライン、ハイブリッド化による利便性と負荷
 - ✓ 参加の柔軟性と集合・接触リスクの回避
 - ✓ オンライン上の参加者や登壇者との円滑な交流への対応
- MICE人材に求められる技術の多様化。既存の語学力・運営に係る要件に加え、デジタル技術への理解と情報発信力が追加
- 多様なバックグラウンドや専門性、意欲のある人材の採用には、業界の重要性や国際会議の社会的意義の認知向上が必要

今後の方向性

- 安心安全な開催に係る根拠の積み上げと綿密な情報発信
- 開催意義の追求と開催効果の最大化を求める主催者のためになる支援の実施
- オンライン化で得られる参加者データに基づく提供価値の最大化
- 人間工学的視点からの参加者の利便性や快適性の追求
- MICE人材の戦略的な確保と育成
 - ✓ 多様な業界から有能な人材を引き付けるための、業界のプレゼンスの向上。プレゼンス向上につながるような国際会議開催の重要性の発信
 - ✓ MICE業界における、知識・スキルセットの体系化と共有の促進
- ICT業界をはじめとする異業種との交流促進による業種間連携の促進、業界に関わる人材のデジタルリテラシーの底上げ

モノ【施設/設備/開催地/ツール/tech】

変化と課題

- 会場・施設に対する主催者および関連事業者からの、ハイブリッド開催や感染症拡大防止に係るサービス・機能の提供ニーズ
- ✓ 十分な通信容量、回線、セキュリティ環境、音響・映像設備
- ✓ 感染拡大防止ガイドラインや既存法令の遵守、必要備品の調達と提供、管理体制の構築
- 開催地選定基準への影響の懸念、開催地全体の面的な安全性を確保するための受入環境整備

今後の方向性

- 感染症のガイドラインを活用した効果的・効率的な感染症対策の実行
- 開催地、PCO、施設、ICT事業者が連携した施設力の強化
 - ✓ DX化に係る通信・設備要件、プラットフォームに係るスタンダードの構築
 - ✓ ユニークベニューの活用、バリアフリー化と組み合わせた施設の魅力の向上
- 自治体、コンベンションビューローが一体となった面的な魅力の構築、受入れ環境整備の促進
- 自治体を中心としたMICE誘致・開催に向けた計画の整備
 - ✓ MICE開催都市としての自地域の魅力、あるべき姿の整理と共有化
 - ✓ 都市計画と連携したMICE開催都市としての課題とその解決策の整理
- オンラインプラットフォームの機能改善・開発によるオンライン上でのインフォーマルなコミュニケーションの場を創出する手法の開発・実装

国際会議のあり方を規定する各要素の変化、対応への課題

カネ【収支構造/リスクヘッジ/投資】

変化と課題

- 収益構造の変化
 - ✓ ハイブリッド開催における、対面・オンラインのダブルコストの常態化
 - ✓ オンライン参加に係る参加費のあり方の変化
 - ✓ オンライン開催に伴うスポンサーの確保の状況変化
- キャンセルリスクの顕在化とキャンセル料・変更手数料の取り扱いに関する問題意識の拡大
- 情報発信：世論を考慮し積極的なPR等が難しい反面、手法を変えた能動的な発信が必要
- 自治体の開催支援：オンライン・ハイブリッド化に伴い、現地参加人数や宿泊数に基づく支援スキームが働かず、それらの催事を支援するスキームが必要

今後の方向性

- オンライン参加者の積極的な募集による収益の確保
- リスク管理手法の実践
 - ✓ リスクを予め整理し、ステークホルダーにおいてリスク発生時の対応策や役割の協議・ルール策定などを行う
 - ✓ キャンセル料規程等の見直し
 - ✓ 保険商品の開発等も視野に入れた業界やMICE開催都市が一丸となった危機管理対応体制の構築
- 業務改革の推進による効率的組織運営の実現
 - ✓ ペーパーレス化、働き方改革の推進
 - ✓ ICT環境の整備と人材への投資
- MICE誘致・開催に係る補助制度の見直し

コト【開催形態/プログラム/持続可能性】

変化と課題

- セッションの合間で実現していた、偶然の出会い、インフォーマルなコミュニケーションという現地開催ならではの魅力喪失の危機
- 参加者の一体感醸成の難しさ
- オンライン参加者の耳目を一定時間集め続けられるような魅力的なプログラム開発と工夫の必要性
- オンライン・ハイブリッド開催の常態化に伴う「開催地に足を運ぶ」ための理由付け難しさ
- 多数の参加者を一つの場に集めることに対する地域住民の抵抗感
- 国際会議開催における持続可能性に対する意識の高まり

今後の方向性

- 開催目的に即した開催形態の提案と提供
- デジタル技術を活用した上での、偶然の出会いを「必然的に」起こすための企画・運営手法の開発
- VR、AR等の技術を活用したオンライン上でも楽しむことができるプログラムの開発、オンライン上での体験の充実
- 開催地に足を運んでみたいとなるような都市の魅力の発信、それに資するオンラインツーリズムコンテンツ等の開発
- 感染症対策を徹底した上での、地域住民が国際会議に関わる場・プログラムの提供
- レガシー効果含む開催メリットの最大化と開催「負荷」低減
- 「持続的な国際会議」実現のための継続的な取組み